

# 小学校体育授業における教師の発話に関する研究

## －体づくり運動に着目して－

戸田圭美 （ 東京学芸大学大学院 ）

### 1. 目的

本研究の目的は、体づくり運動の授業（体ほぐしの運動を除く）において、教師が行った発話を調査することを通して、授業中に教師が学習内容に関して行った発話という行為のもつ意味について検討することである。

### 2. 研究方法

- 1) 日常的に体育科の授業研究を行っている教師6名の全23授業を対象とした。
- 2) 調査対象の教師が行う体づくり運動の授業を観察し、全体の様子と教師の行動についてビデオカメラで撮影した。また、教師の発話については、ワイヤレスマイクで収録した。
- 3) ①発話の内容と発話の形式の側面から、行われた教師の発話カテゴリーを生成した。  
②発話カテゴリーと、その発話が行われた状況を合わせて分析し、発話カテゴリー間の関係を解釈した。

### 3. 結果と考察

- 1) 教師の発話カテゴリーを分析した結果、7種類の内容カテゴリーと、12種類の形式カテゴリーが生成された。
- 2) なぜ生成された内容カテゴリーがこの7種類だったのか考察したところ、これらのカテゴリーの内容は、「学習指導要領解説」や「学校体育実技指導資料第7集 体づくり運動」の中で記述されている内容と一致していた。このような結果になった理由として、体づくり運動領域の自由性が、どのように授業をしたらよいかわからないという教師の迷いを生んでいたからであると考えられた。この自由であるが故に生じる迷いから逃れる1つの道として何か客観性のある権力やシステムに従属する道があると言われている。このことから、教師は上記の迷いから逃れる

ために、文部科学省から出されている客観性のある資料の中で記述されている内容をもとに授業を行っている可能性が考えられた。

- 3) 発話カテゴリー間の関係を解釈した結果、いくつかの発話カテゴリーが互いに関係し合うことで、発話としての意味が構成される可能性が考えられた。また、子どもの動きに先立って行われる発話の存在と、子どもの動きの後に行われる発話の存在が明らかとなった。
- 4) 3)のように、発話カテゴリー間の関係を解釈したことにより、発話の文字通りのメッセージと、発話のかくれたメッセージについて言及することができた。そして、このかくれたメッセージに着目することにより、その発話が行われた意味や、教師が捉える学習内容、子どもの動きに対する考えなどについて言及することができる可能性が示唆された。

### 4. 結論

本研究では、体づくり運動において行われた教師の発話という行為のもつ意味について明らかにした。教師の授業や子どもの動きに対する考えが、教師が行う発話に影響を与えている可能性が考えられた。授業に対する考えや想定する子どもの姿などは、領域や学習内容、個々の教師などによって異なると考えられる。そのため、本研究で得られた知見は、その領域やその教師だからこそ行われた発話が存在する可能性を示唆するものであると考えられる。

### 5. 主な参考文献

- 1) 稲垣恭子(1985) 教室における相互作用—クラスルームの社会学—. 柴野昌山編 教育社会学を学ぶ人のために. 世界思想社, pp.145-155.
- 2) 苫野一徳(2014)「自由」はいかに可能か 社会構想のための哲学. NHK出版, pp.3-19.